【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成28年7月28日(2016.7.28)

【公開番号】特開2016-106080(P2016-106080A)
【公開日】平成28年6月16日(2016.6.16)
【年通号数】公開・登録公報2016-036
【出願番号】特願2015-227258(P2015-227258)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｋ　16/32　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　16/28　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　 1/02　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　16/46　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7076　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/198　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/5575　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/19　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/455　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/53　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｋ　16/32　ＺＮＡ
Ｃ０７Ｋ　16/28
Ｃ１２Ｑ　 1/02
Ｃ０７Ｋ　16/46
Ａ６１Ｐ　29/00
Ａ６１Ｋ　31/7076
Ａ６１Ｋ　31/198
Ａ６１Ｋ　31/5575
Ａ６１Ｋ　31/19
Ａ６１Ｋ　31/455
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｎ
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｋ　45/00
Ｇ０１Ｎ　33/53　Ｙ

【手続補正書】
【提出日】平成28年5月27日(2016.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】

標的組織特異的な化合物の濃度に応じて抗原に対する結合活性が変化する抗原結合ドメインを選択することを含む、抗原結合ドメインを含む抗原結合分子の製造方法。
【請求項２】
以下(a)から(c)の工程：
(a) 標的組織特異的化合物の濃度が第１濃度である条件下における抗原結合ドメインの抗原結合活性を得る工程、
(b) 標的組織特異的化合物の濃度が第１濃度と異なる第２濃度である条件下における抗原結合ドメインの抗原結合活性を得る工程、
(c) 前記第１濃度と前記第２濃度での抗原結合活性が異なる抗原結合ドメインを選択する工程、
を含む、請求項１記載の方法。
【請求項３】
前記第２濃度が前記第１濃度より高い濃度であり、前記(c)工程は第２濃度下での抗原結合活性が第１濃度下での抗原結合活性より高い抗原結合ドメインを選択する工程である、請求項２記載の方法。
【請求項４】
前記第１濃度が０である、請求項２もしくは請求項３記載の方法。
【請求項５】
以下(a)から(c)の工程：
(a) 標的組織特異的化合物の濃度が第１濃度である条件下において抗原結合ドメインもしくはそれらのライブラリを抗原に接触させる工程、
(b) 前記工程(a)で抗原に結合した抗原結合ドメインを当該化合物の濃度が第１濃度と異なる第２濃度である条件下に置く工程、
(c) 前記工程(b)で解離した抗原結合ドメインを単離する工程、
を含む、請求項１記載の方法。
【請求項６】
前記第２濃度が前記第１濃度より低い濃度である、請求項５記載の方法。
【請求項７】
前記第２濃度が０である、請求項５もしくは請求項６記載の方法。
【請求項８】
以下(a)から(d)の工程：
(a) 標的組織特異的化合物の濃度が第１濃度である条件下において抗原結合ドメインもしくはそれらのライブラリを抗原に接触させる工程、
(b) 前記工程(a)で抗原に結合しない抗原結合ドメインを選択する工程、
(c) 標的組織特異的化合物の濃度が第１濃度と異なる第２濃度である条件下において、前記工程(b)で選択された抗原結合ドメインを抗原に接触させる工程、
(d) 前記工程(c)で抗原に結合した抗原結合ドメインを選択する工程、
を含む、請求項１記載の方法。
【請求項９】
前記第２濃度が前記第１濃度より高い濃度である、請求項８記載の方法。
【請求項１０】
前記第１濃度が０である、請求項８もしくは請求項９記載の方法。
【請求項１１】
以下(i)～(ii)の工程：
(i) 前記選択されたまたは前記単離された抗原結合ドメインをコードするポリヌクレオチドを含むポリヌクレオチドが作動可能に連結されたベクターが導入された細胞を培養する工程、
(ii) 前記(i)で培養された細胞の培養液から抗原結合ドメインを含む抗原結合分子を回収する工程、
を含む、請求項１から１０いずれかに記載の方法。

【請求項１２】
前記標的組織が癌組織である、請求項１から１１いずれかに記載の方法。
【請求項１３】
前記癌組織特異的化合物が、癌細胞特徴的代謝産物、癌組織に浸潤している免疫細胞特異的代謝産物、癌組織のストローマ細胞特異的代謝産物である、請求項１２記載の方法。
【請求項１４】
前記標的組織が炎症組織である、請求項１から１１いずれかに記載の方法。
【請求項１５】
前記炎症組織特異的化合物が、炎症組織に浸潤している免疫細胞特異的代謝産物、炎症組織において傷害を受けている細胞特異的代謝産物である、請求項１４記載の方法。
【請求項１６】
前記代謝産物が、生体高分子以外の低分子化合物である、請求項１３もしくは請求項１５記載の方法。
【請求項１７】
前記化合物が、プリン環構造を有するヌクレオシド、アミノ酸とその代謝産物、脂質とその代謝産物、糖代謝の一次代謝産物、およびニコチンアミドとその代謝産物からなる群より選択される少なくとも一つの化合物である、請求項１から１６いずれかに記載の方法。
【請求項１８】
前記化合物が、アデノシン、アデノシン3リン酸、アデノシン2リン酸、アデノシン1リン酸、イノシン、アラニン、グルタミン酸、アスパラギン酸、キヌレニン、プロスタグランジンE2、コハク酸、クエン酸、および1-メチルニコチンアミドからなる群より選択される少なくとも一つの化合物である、請求項１から１７いずれかに記載の方法。
【請求項１９】
前記抗原結合分子が重鎖可変領域（VH）及び軽鎖可変領域（VL）を含む、請求項１から１８いずれかに記載の方法。
【請求項２０】
前記抗原結合分子が抗体もしくは抗体断片である、請求項１９記載の方法。